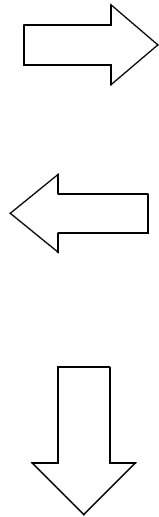


# 石神井南中学校**数学科**の授業改善推進プラン

**昨年の学力検査、授業に基づく分析**

- ・習熟度別少人数授業をしており、個々に対してきめ細やかな指導・助言をし、基礎学力の定着を図っている。
- ・『見方・考え方』の力を身に付けるために論証能力を養う問題を系統的に取り上げて定着を図っている。

[領域別にみると]「数と式」では十分に理解されている。図形の論証力も確実に身につけてきている。「関数」のグラフの読み取りがまだ、不十分な生徒が若干いる。確率の分野は、知識理解を深める授業内容を盛り込む必要がある。



**分析から見た課題**

『知識・技能』の観点においては、基本的な内容を中心に繰り返し定着が図れる教材を担当教員が考えながら実施している。また、習熟度別少人数授業により生徒一人一人への対応ができており、基礎学力が身に付いてきている。

今後の課題としては、関数の応用力を伸ばすために、グラフを読み取る力が新しい教科書にはあまりなくグラフの教材を扱った授業を取り入れ、問題を正確に読む力を付ける。また、確率では導入段階で実験値と理論値の意味や知識理解の能力が高まるように他の領域のバランスを考えて授業時間を確保したい。

**【指導法の課題分析及び改善策・指導計画】**

	指導方法の課題	具体的な授業改善策	補充・発展的指導計画
1年	3年間の学習の基礎となる事項についてしっかりと定着させることが課題である。また、自分が考えた式や解法などを発表・表現する能力を育むことも課題である。	小テスト等を行い、3年間の基礎となる正負の数、文字式の学習内容を定着させる。また、文章題での立式に至る考えや、基礎的知識を元にした図形の見方や考え方を、発表・表現させる時間を確保する。	基礎学力の定着を図るために、文字式までの計算でつまずきのある生徒に対しては、放課後や長期休業日を利用して補充をしていく。生徒の実態に応じて、発展問題は精査し取り組ませていく。
2年	1年で学習した内容について、さらに積み重ねを十分にしておいて内容を充実させ、発展させる力を養うよう指導していくことが課題であるといえる。	式の計算方法および連立方程式の意味を十分に理解させるとともに合同条件を使って図形の性質を調べるため、題材を精選する。合同の証明では自分の考えを発表出来るような授業展開をする。	式の計算や式による説明や連立方程式の意味を知ることから、文章題や一次関数の理解を深め発展させていく。図形の性質についても理解を深め論証能力を身に付けさらに発展させていく。
3年	3年間のまとめとして、基本的事項を十分に理解させ、それらの相互の関連性を知り、知識を深めて活用していく力を伸ばすよう指導することが課題である。また、問題文をよく読み活用・利用・応用できる力を伸ばすよう指導することも課題である。	計算分野では、基本的事項をしっかり理解させ、問題に応じて柔軟に対応できるように演習の機会を設けていく。 関数の分野では、既習事項を確認しながら、様々な活用方法を理解させていく。 図形の分野では、性質を様々な角度から見させ、論理的に考察させ、定理を導くことで理解を深めさせていく。	基本的な内容の定着ができていない生徒に対し、放課後を利用して個別指導していく。また、計算分野、関数分野での活用方法や文章題にも興味をもたせ、個々に応じて更に発展させられるに指導していく。さらに、相似の性質や三平方の定理を利用する問題を多く演習し、理解を深めていく。